

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果について

紀北町教育委員会
令和 7 年 9 月

本年 4 月 17 日に小学校第 6 学年児童と中学校第 3 学年生徒を対象に実施しました「全国学力・学習状況調査」について、分析結果がまとまりましたので、以下のようにご報告いたします。

本調査は、学校における児童生徒への教育指導の充実や家庭学習も含めた学習状況の改善等に役立てる目的で実施しています。また、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、教職員の授業指導法の改善と、教育施策の推進に役だてています。

本調査の学力に関する調査結果は、児童生徒の学力の全てを表すものではありません。しかし、適切に調査結果の分析を行い、教科指導方法の改善に役立てて、一人一人の個別最適化した学習と協働的な学習の充実・改善を進め、今後の紀北町の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

1 調査の概要

（１）調査の目的

- ①教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習と生活状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実と、学習状況の改善等に役立てます。
以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

（２）調査の対象学年

小学校第 6 学年児童 及び 中学校第 3 学年生徒

（３）調査の内容

①教科の調査

- ・ 小学校は、国語、算数、理科 （３教科）
- ・ 中学校は、国語、数学、理科 （３教科）

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

③学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

（４）調査実施日（全数調査）

令和 7 年 4 月 17 日（木）

(5) 本体調査を実施した学校・児童生徒数〔紀北町〕

【小学校調査】

	対象学校数	実施学校数（実施率）	児童数
小学校	7	7（100％）	75人

【中学校調査】

	対象学校数	実施学校数（実施率）	生徒数
中学校	4	4（100％）	79人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項（実施要項抜粋）

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意して、適切に取り扱います。

その際、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえながら、序列化や過度な競争につながらないように十分留意します。

2

教科の調査結果概要

(1) 教科の調査の全体的な結果概要

- ①本調査の結果について、本年度から教科ごとの各領域の結果分析がわかる「平均正答率*1」に加えて、「IRT*2」を用いて概要を説明します。

*1 正答率とは

正答率は各教科の問題数あたりの正答の割合を示します。課題の難易度により正答率は大きく変動するため、前年度との比較等には適しません。

*2 IRTとは

項目反応理論。問題の特性（難易度や識別力等）と各児童生徒の学力を分けて考える枠組みであり、いくつかの手続きを経ることで、異なる時点、問題セット、児童生徒集団等で実施した場合であっても、その結果を相互に比較できるようになります。

（今年度は、中学校理科のみ活用）

- ②小学校について平均正答率で見ると、国語、算数、理科ともに全国平均を下回りました。課題が見えた領域では自己採点で判明した課題領域の補充に取り組み、指導法の改善を始めています。
- ③中学校について平均正答率で、国語と数学を見ても、国語は、全国平均を下回りました。数学は、本年度も全国平均を上回りました。また、理科は、IRT 平均スコアが全国を下回りました。

小学校の教科の経年変化と各教科の分析

(1) 平均正答率からみる経年変化

・平均正答率

	国語		算数		理科	
	町平均 (%)	全国平均 (%)	町平均 (%)	全国平均 (%)	町平均 (%)	全国平均 (%)
R7	63.0	66.8	57.0	58.0	55.0	57.1
R6	73.0	67.7	62.0	63.4		
R5	66.0	67.2	63.0	62.5		
R4	55.8	65.6	64.2	63.2	59.9	63.3
R3	60.0	64.7	71.0	70.2		

(2) 各教科の分析

① 国語

・『知識及び技能』の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使えるかどうかをみる」問題は、平均正答率が全国平均を下まわり課題となっています。

・『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」については、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることがどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を上まわり、成果がみられます。

「読むこと」については、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を下まわり課題がみられます。

「書くこと」については、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を下まわっており、課題が見られます。

② 算数

・「データの活用」の領域で平均正答率が全国平均を上まわっています。

・「数と計算」の領域については、8問中5問で平均正答率が全国平均を下まわっており、特に「伴って変わる二つの数量関係に着目する」問題に課題がみられます。一方、「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわっています。

- ・「変化と関係」の領域については、3問中3問で平均正答率が全国平均を下まわっており、課題がみられます。
- ・「図形」の領域については、「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる」問題で平均正答率が全国平均を上まわっていますが、「台形の意味や性質を理解しているかどうかをみる」問題や「角の大きさをについて理解しているかどうかをみる」問題は平均正答率が全国平均を下まわっています。

③ 理科

- ・「エネルギー」を柱とする領域については、「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわっていますが、「電気の回路のつくり方について実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・「粒子」を柱とする領域については、「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわっていますが、「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・「生命」を柱とする領域においては、4問中、4問とも平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・「地球」を柱とする領域においては、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上回っていますが、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を下まわっています。

中学校の教科の経年変化と各教科の分析

(1) 平均正答率・平均 IRT スコアからみる経年変化

・平均正答率

	国語		数学		理科	
	町平均 (%)	全国平均 (%)	町平均 (%)	全国平均 (%)	町平均 (%)	全国平均 (%)
R7	53.0	54.3	52.0	48.3		
R6	61.0	58.1	53.0	52.5		
R5	56.2	69.8	53.7	51.0		
R4	64.0	69.0	56.9	51.4	46.0	49.3
R3	56.1	64.6	59.0	57.2		

・平均 IRT スコア（理科のみ）

	理科	
	町平均	全国平均
R7	479	503

（２）各教科の分析

① 国語

- ・『知識及び技能』の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、「文脈に即して正しく漢字をつかうかどうかをみる」問題は、平均正答率が全国平均を上まわっていますが、「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」については、４問中４問とも平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・『思考力・判断力・表現力等』の「書くこと」については、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわっています。
- ・「読むこと」については、３問中３問とも平均正答率が全国平均を下まわっています。特に「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題に課題が見られます。

② 数学

- ・「数と式」の領域については、５問中３問で平均正答率が全国平均を上まわり、成果が見られます。特に、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を大きく上まわっています。「素数の意味を理解しているかどうかをみる」問題で平均正答率が全国平均を下まわっており、課題がみられます。
- ・「図形」の領域については、４問中３問で平均正答率が全国平均を上まわり、成果が見られます。特に、「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たにわかる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる」問題で平均正答率が全国平均を大きく上まわっています。
- ・「関数」の領域については、３問中３問とも平均正答率が全国平均を上まわっています。
- ・「データの活用」の領域については、３問中２問、平均正答率が全国平均を上まわっています。特に、「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわり、成果がみられます。

③ 理科

- ・「エネルギー」を柱とする領域については、「仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができる

かどうかをみる」問題で、課題が見られます。

- ・「粒子」を柱とする領域では、「加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身についているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を上まわっています。「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身についているかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国平均を下まわっています。
- ・「地球」を柱とする領域については、「地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさと隙間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる」問題で課題が見られます。

3

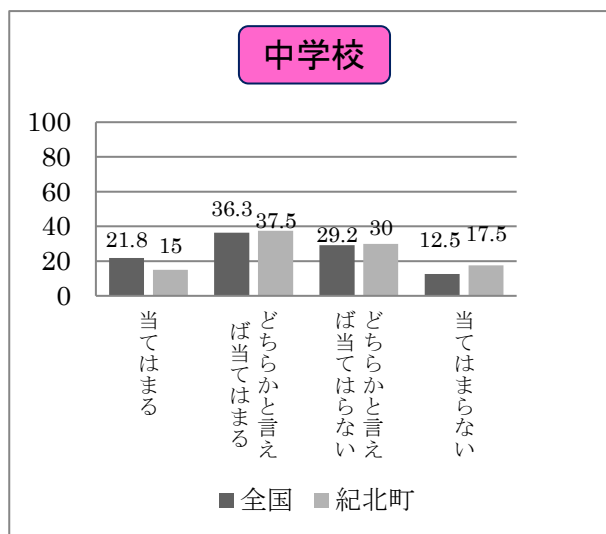
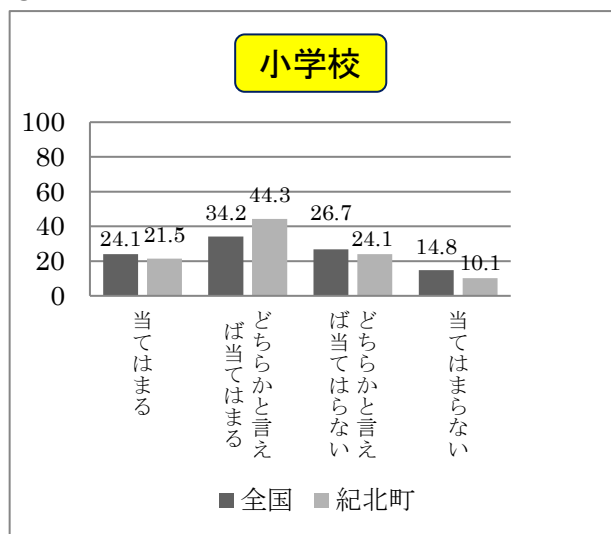
児童生徒質問紙調査結果の特徴的な傾向

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載します。

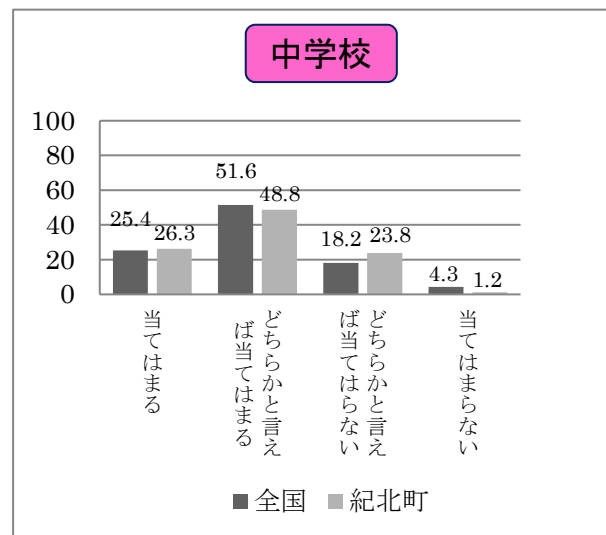
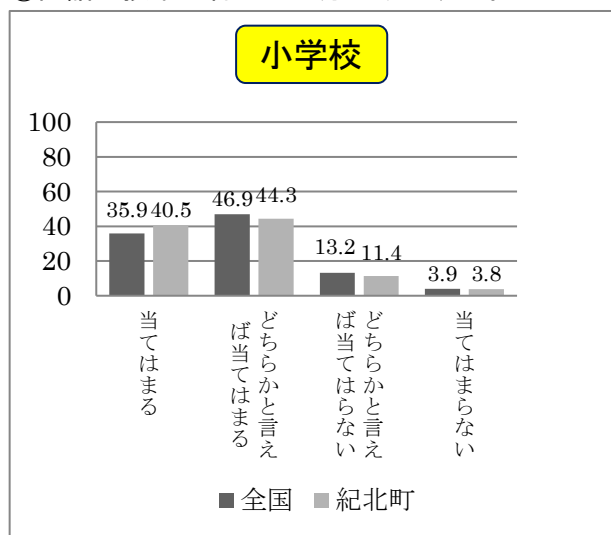
(1) 学校教育に関する特徴的なこと

- 「国語、算数・数学、理科の勉強は好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、算数・数学、理科では、小学校中学校とも全国より高いです。国語では小学校は全国より高く、中学校は全国より低いです。
- 「国語、算数・数学、理科の授業の内容はよく分かりますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、国語、算数・数学、理科とも小学校、中学校は全国より高いです。
- 「国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、国語、数学では、小学校、中学校とも全国より高いです。理科では、小学校は全国よりも高く、中学校では全国より低いです。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高いです。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高いです。
- 「友達関係に満足していますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高いです。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高いです。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高いです。

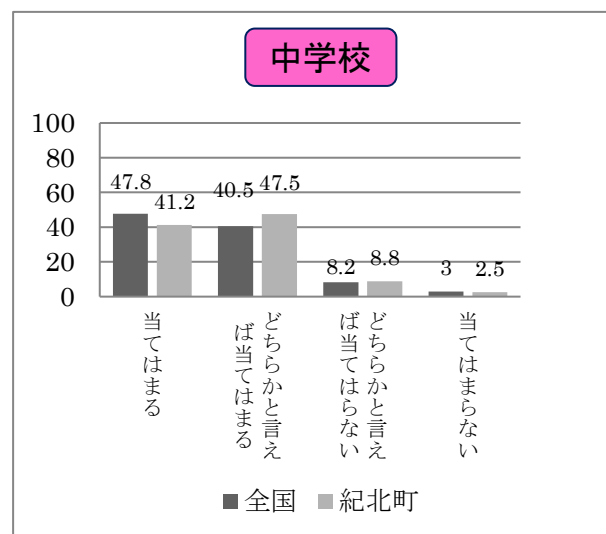
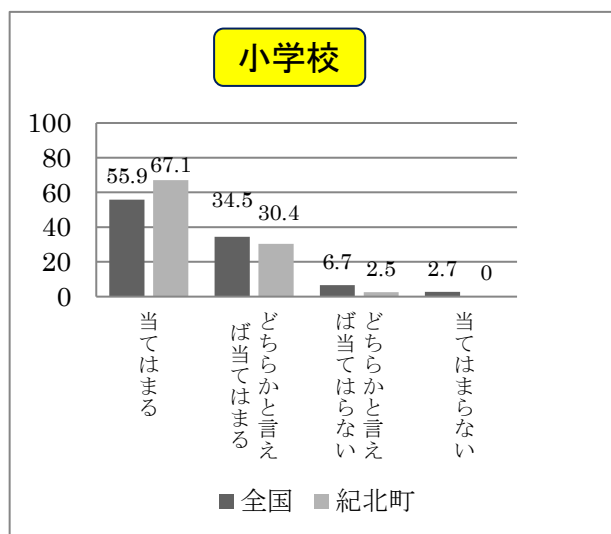
①国語の勉強は好きですか。



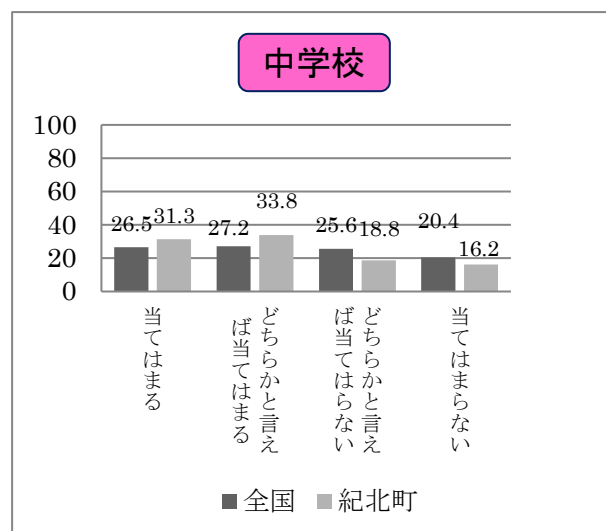
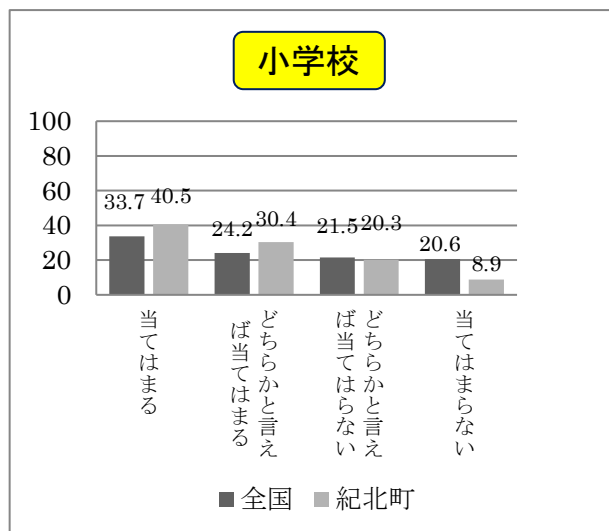
②国語の授業内容はよく分かりますか。



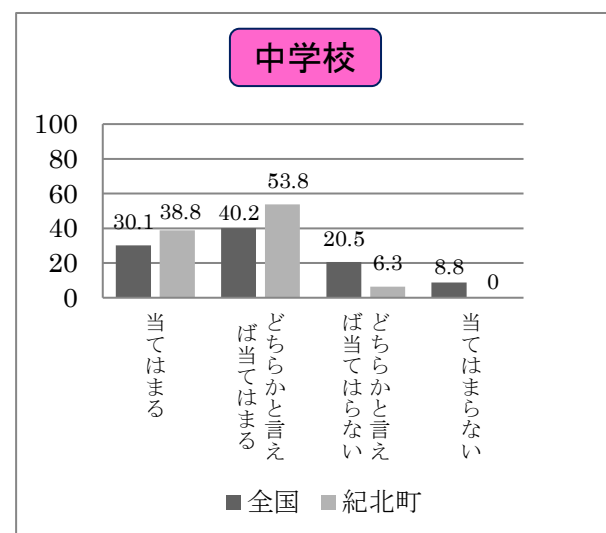
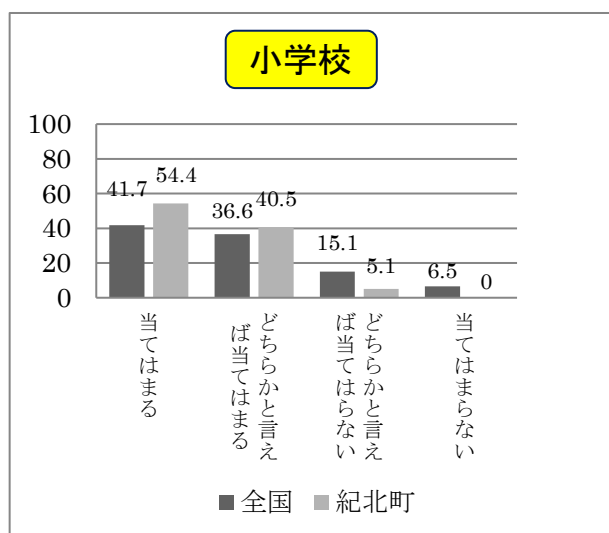
③国語の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つと思いますか。



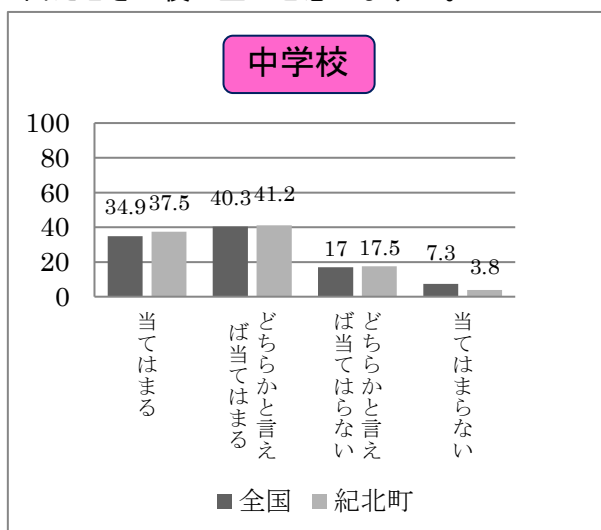
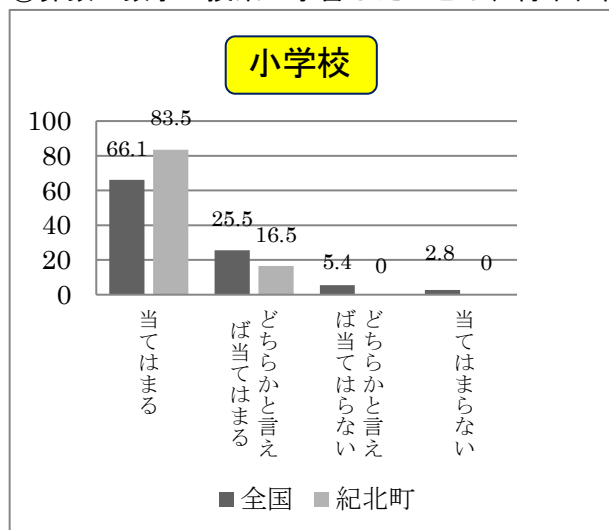
④算数・数学の勉強は好きですか。



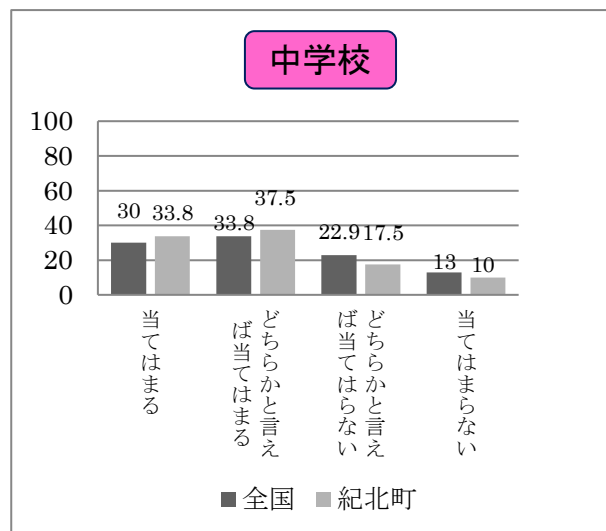
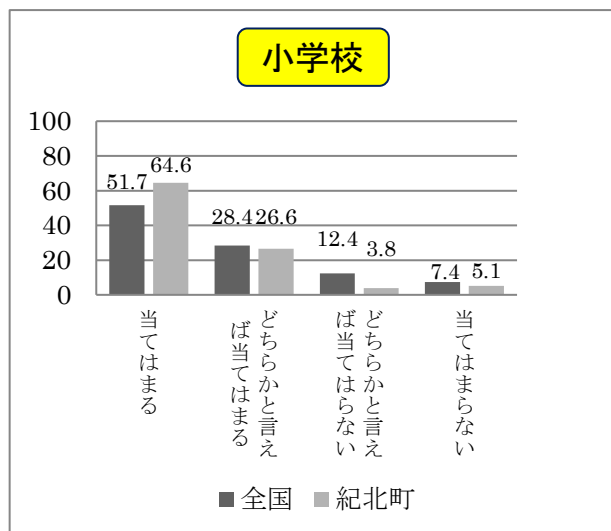
⑤算数・数学の授業内容はよく分かりますか。



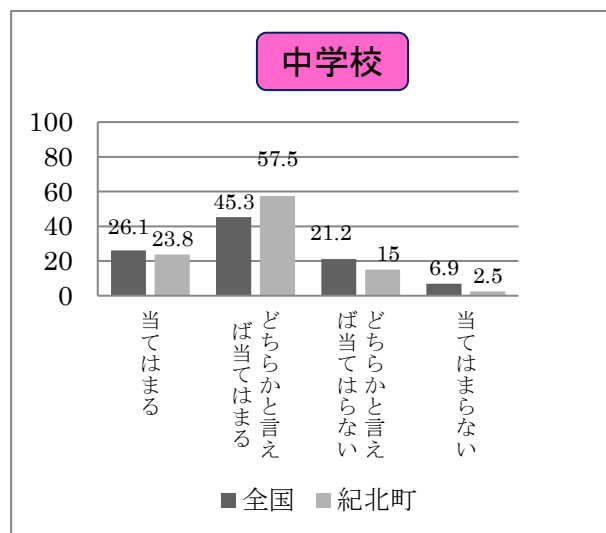
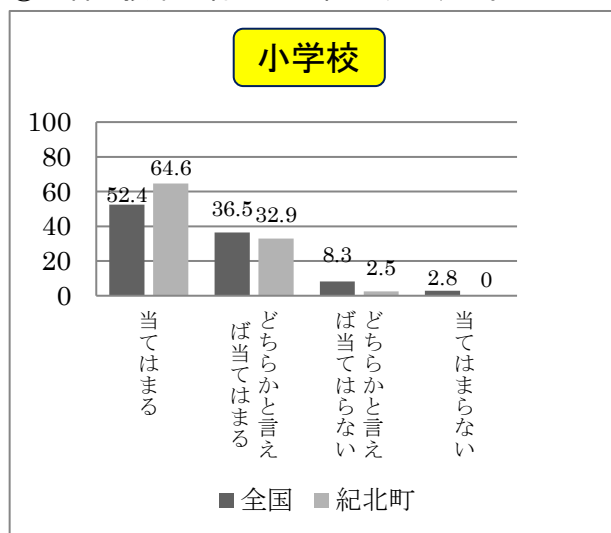
⑥算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



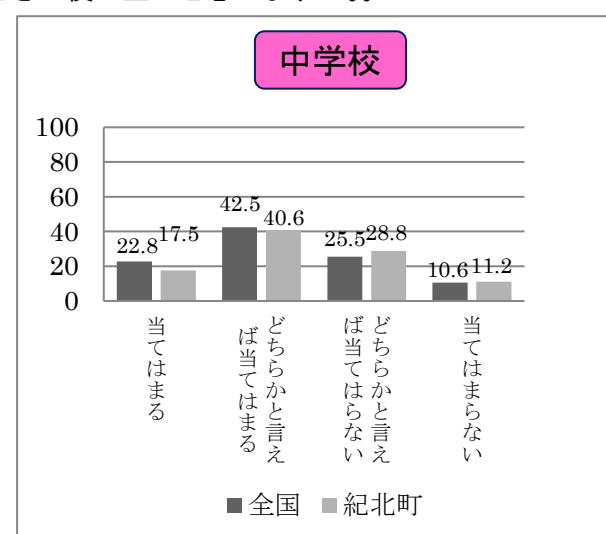
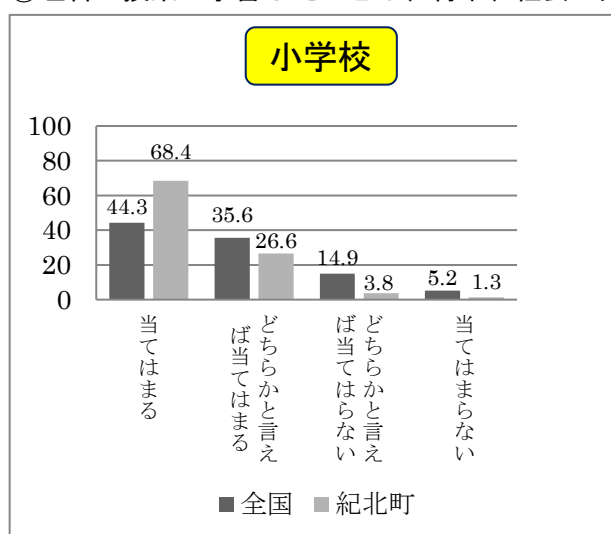
⑦理科の勉強は好きですか。



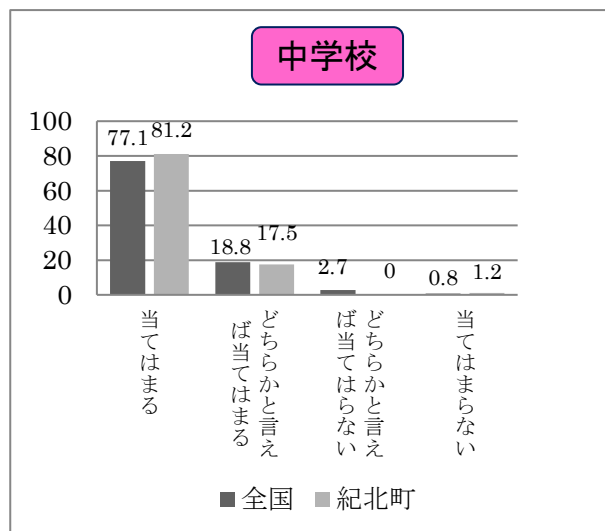
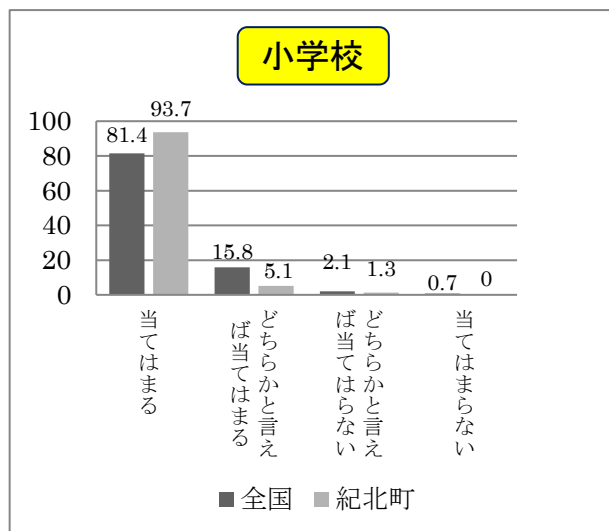
⑧理科の授業内容はよくわかりますか。



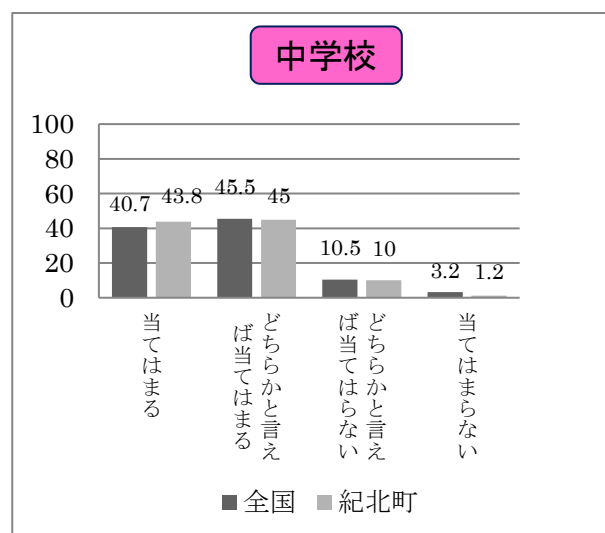
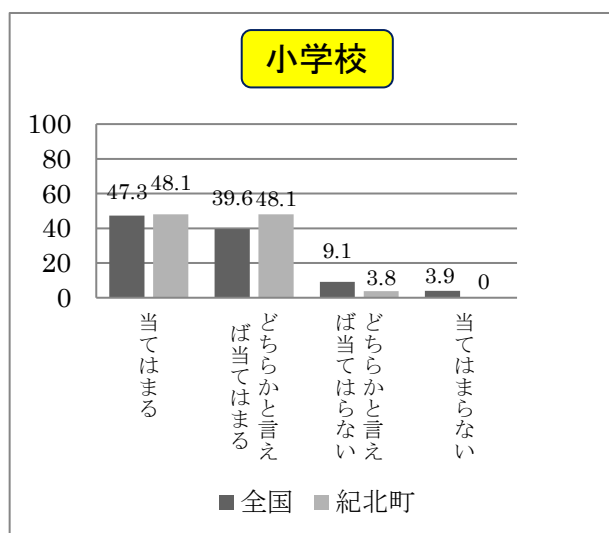
⑨理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。。



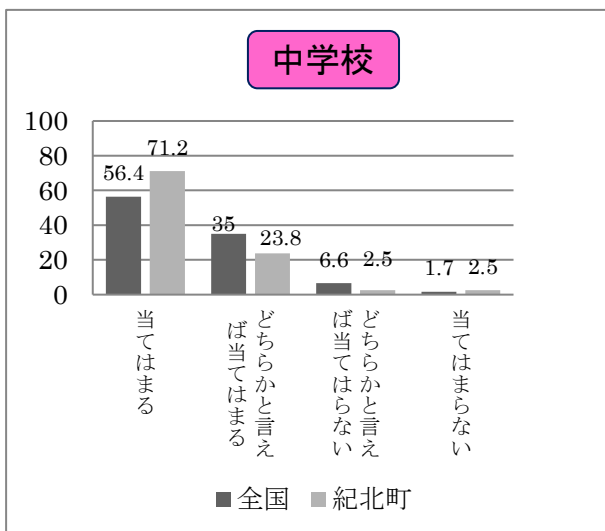
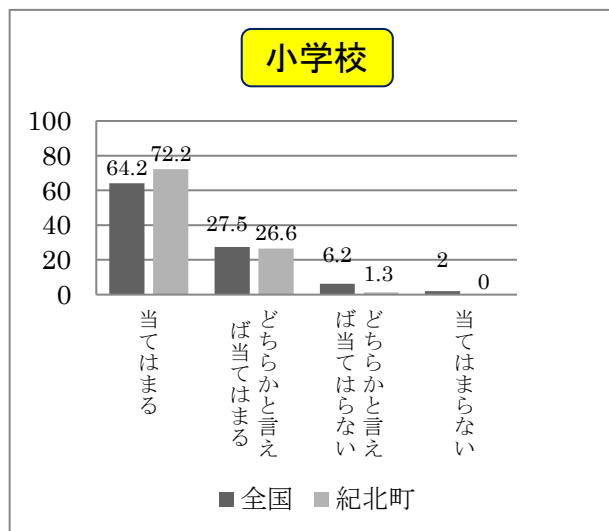
⑩ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



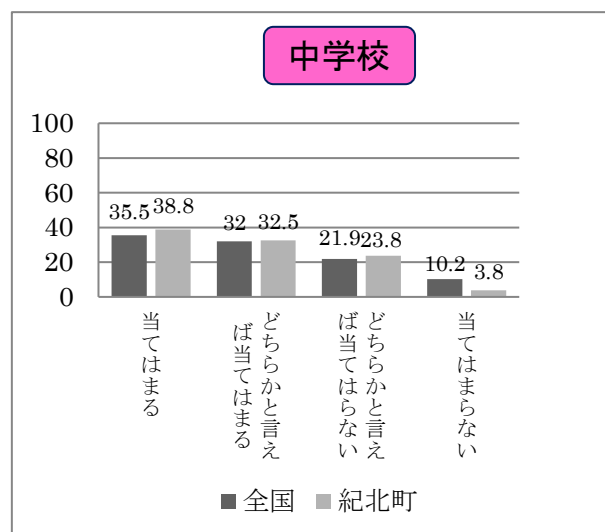
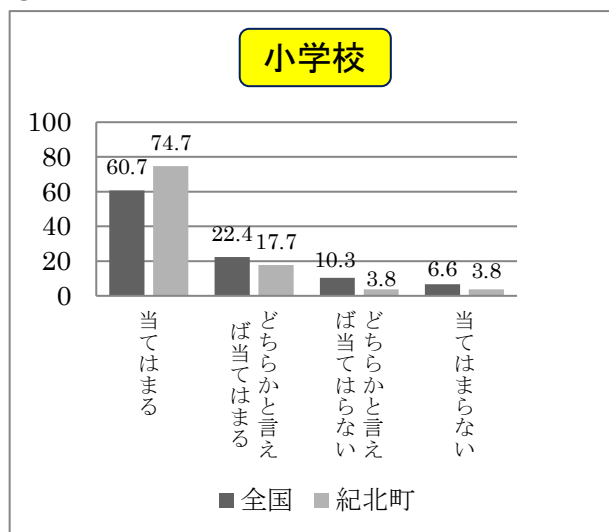
⑪ 自分には、よいところがあると思いますか。



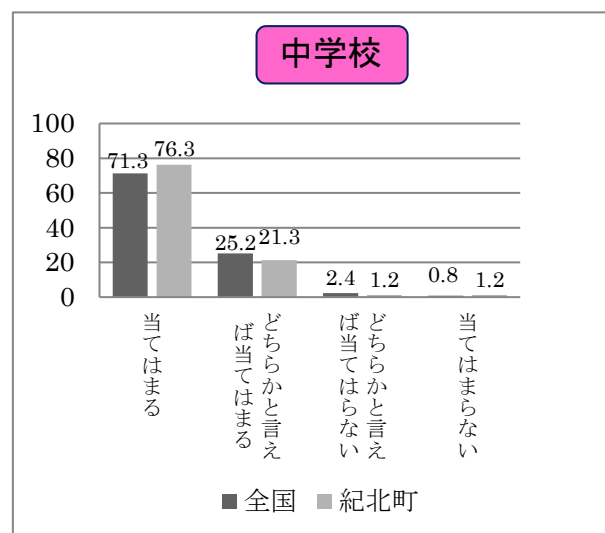
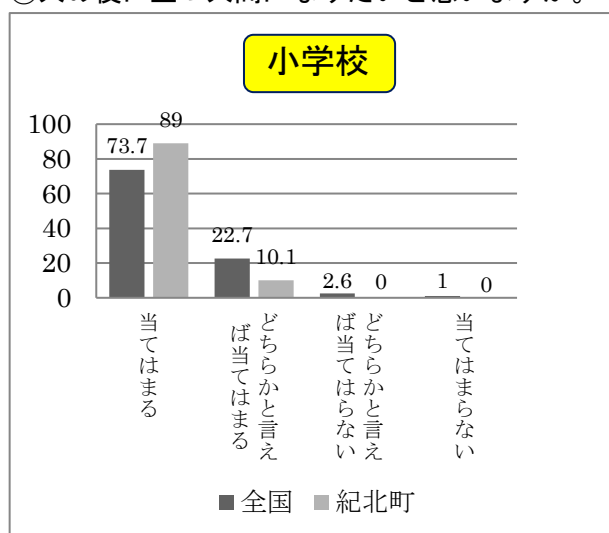
⑫ 友達関係に満足していますか。



⑬将来の夢や目標を持っていますか。



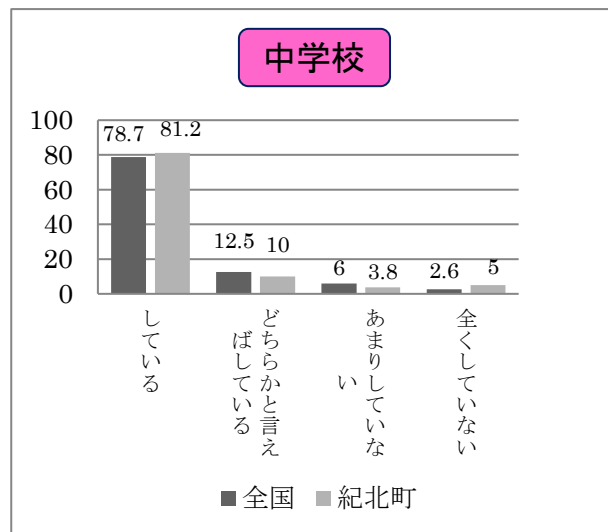
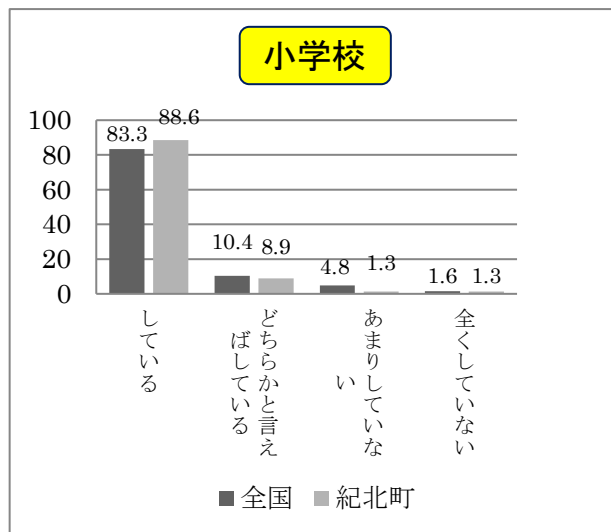
⑭人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



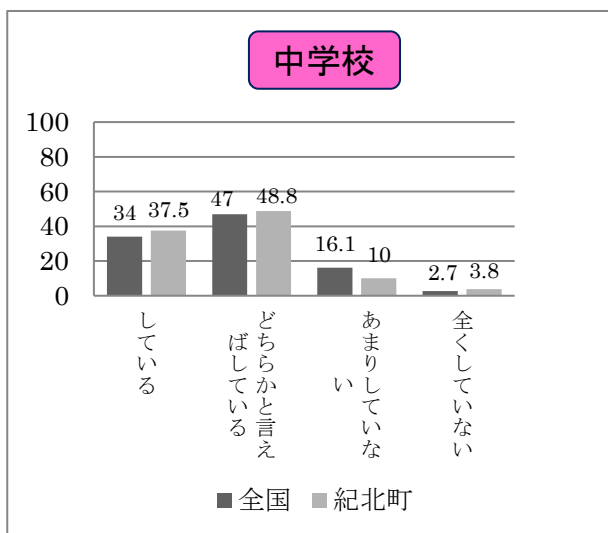
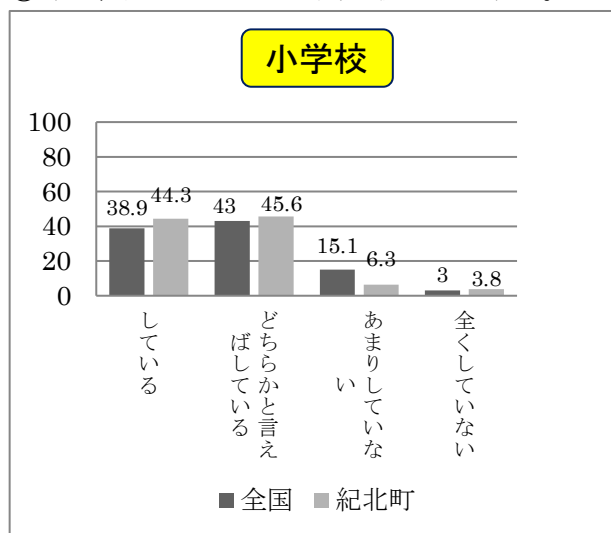
(2) 基本的生活習慣で特徴的なこと

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国とほぼ同じです。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高くなっています。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国よりも低く、中学校は全国よりも高くなっています。

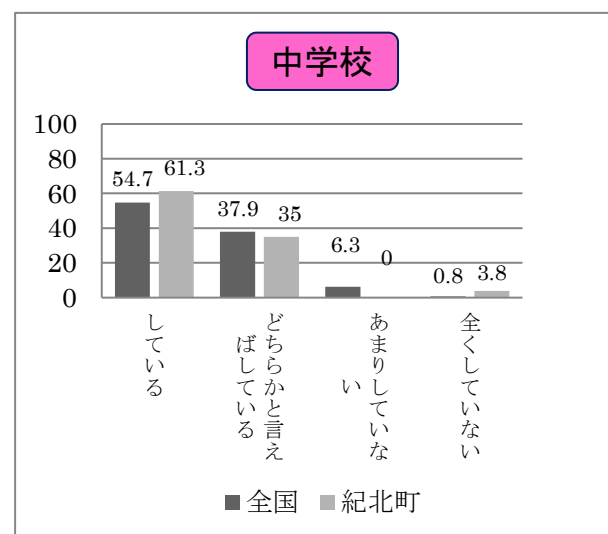
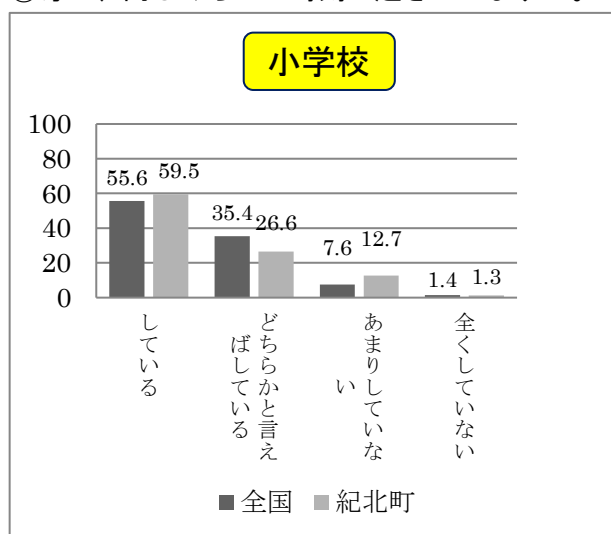
①朝食を毎日食べていますか。



②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



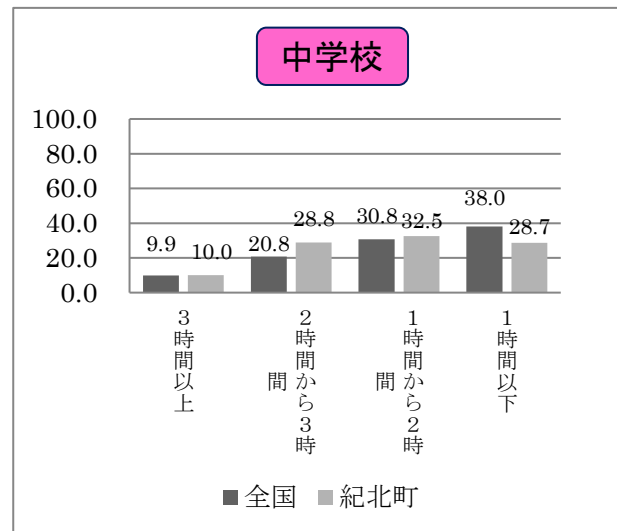
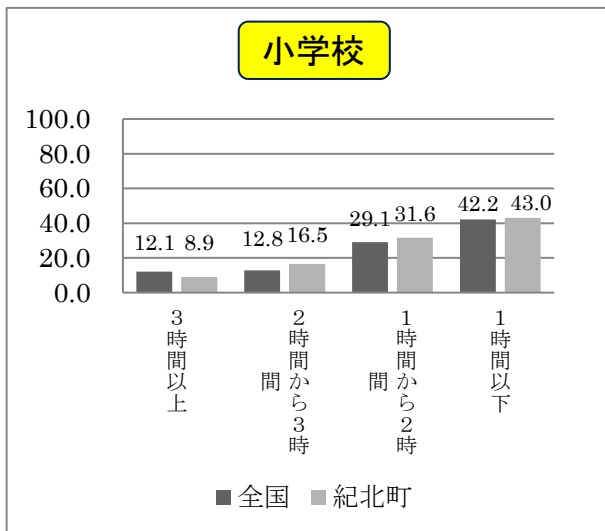
③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



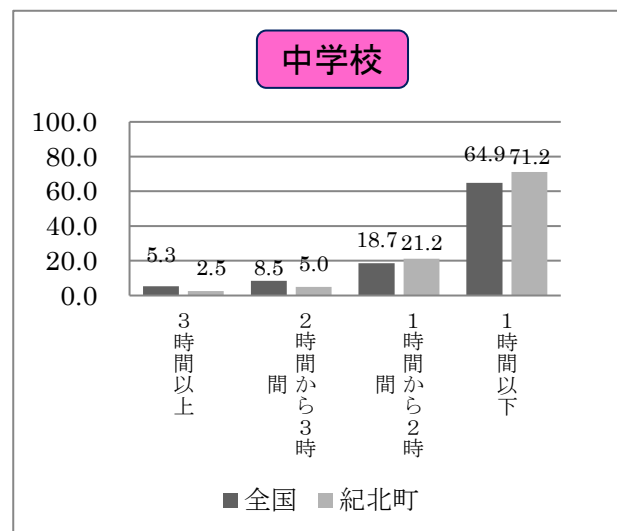
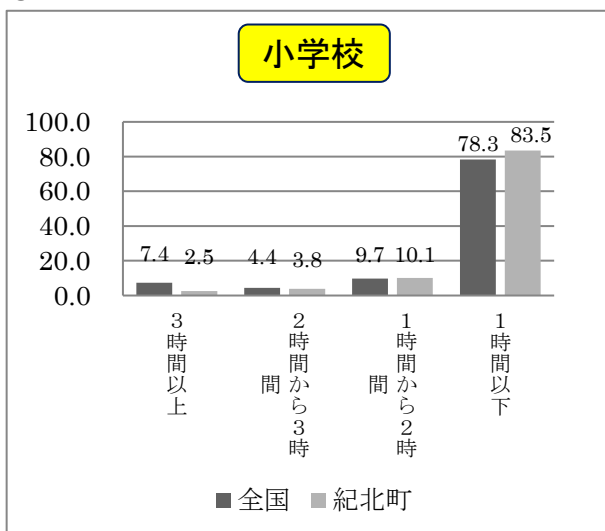
(3) 家庭学習で特徴的なこと

- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）2時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国より高くなっています。
- 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に2時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低くなっています。
- 読書が好きな児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低くなっています。

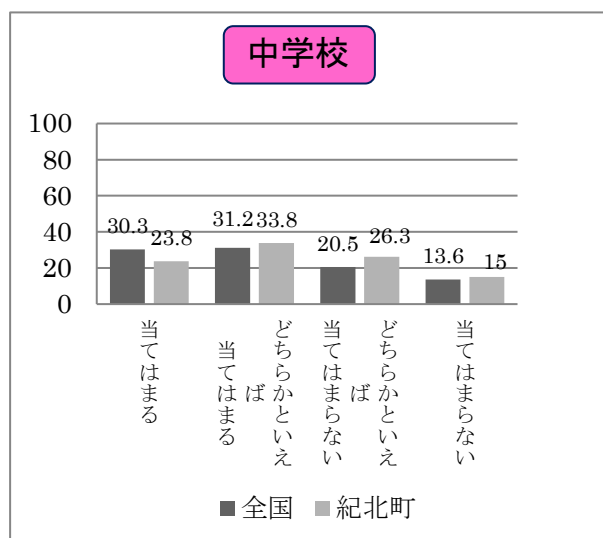
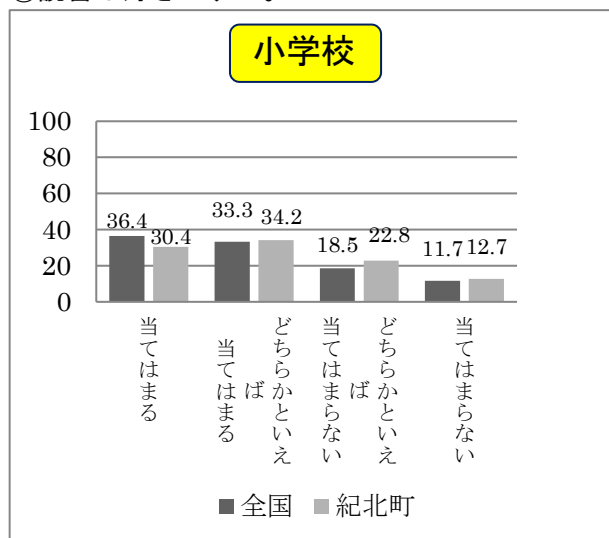
①普段（月～金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



②土曜日や日曜日など、学校が休みの日に1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。



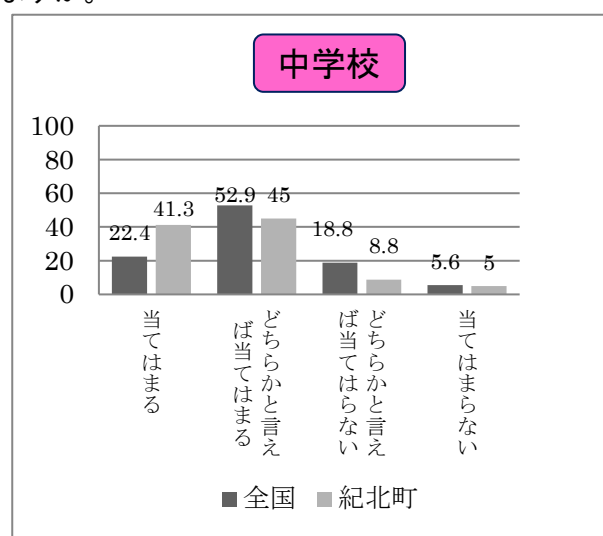
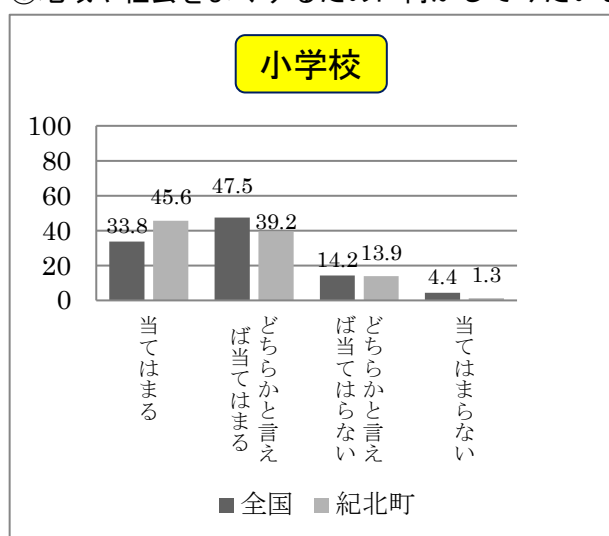
③読書は好きですか。



(4) 地域貢献・社会貢献で特徴的なこと

- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高くなっています。

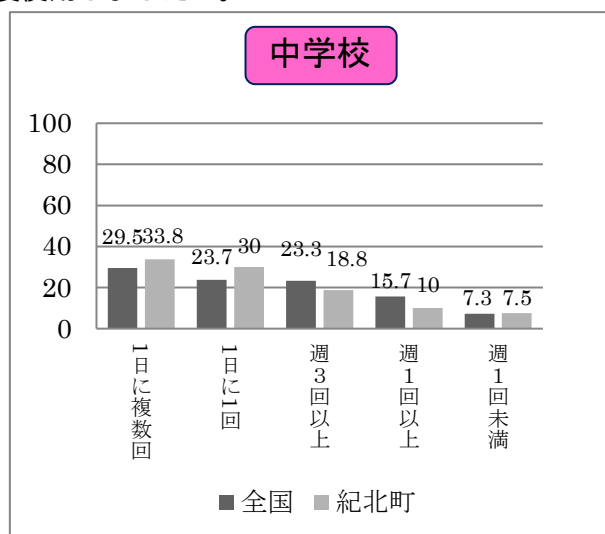
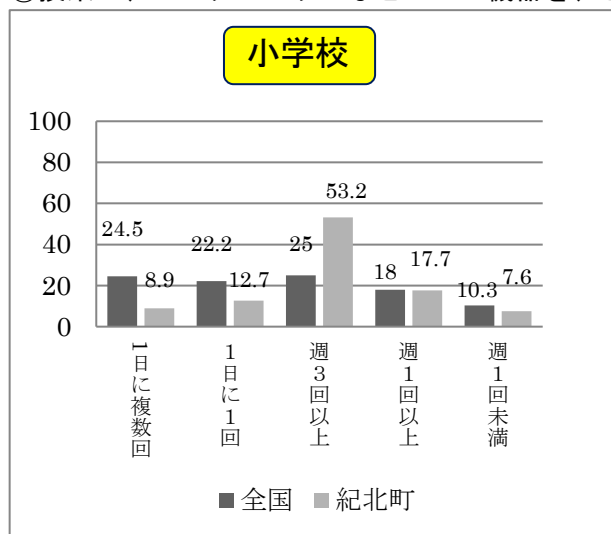
①地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



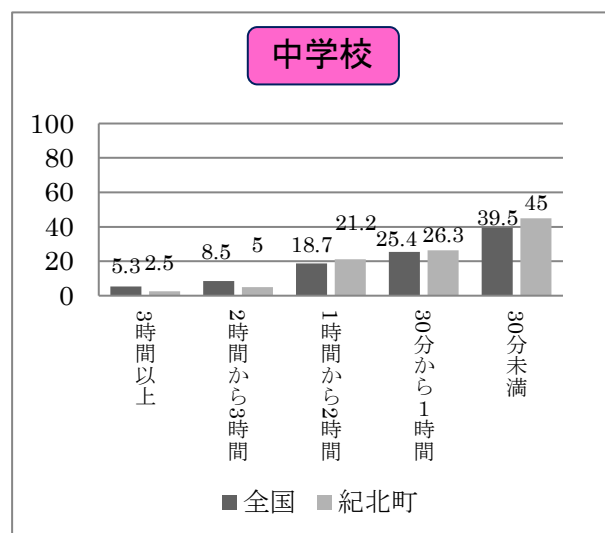
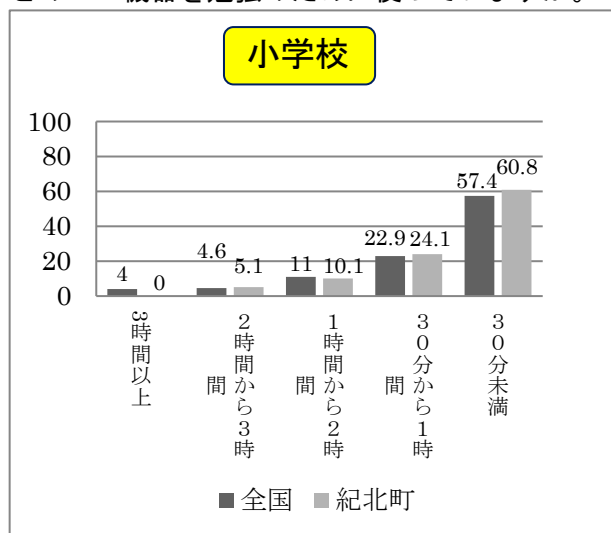
(5) ICT機器の活用について

- 学校で、授業で1日に1回以上 ICT 機器を使う割合は、小学校では全国より低く、中学校では全国より高くなっています。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強に1時間以上使う児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低くなっています。

①授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。



②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか。



4

学校質問紙調査結果の特徴的な傾向

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。ここでは、「学校質問紙調査」のうち、肯定的に回答したものの特徴的な傾向と、改善すべき課題を記載します。

肯定的な回答の特徴的な傾向

- 児童生徒は一人ひとりごとで理解の仕方が異なることから、小学校入学時から一人一人の特性や学級集団の特性の理解に努めて、教職員間で積極的に情報の共有を図り切れ目のない指導と支援を行っています。
- 自己肯定感や幸福感など一人ひとりのウェルビーイングの向上に関する質問において、児童生徒ともに全国平均よりも高い結果となっています。

- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせるキャリア教育指導を行っています。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じた、個別最適化された学習課題や活動の工夫を進めています。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っています。
- 教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があります。
- 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しています。

改善が必要な回答

一方、土曜日や日曜日など、学校が休みの日 1 の日あたりの学習時間が短い実態が見られます。また、読書が好きだと答える児童生徒が全国平均より低い実態が見られるなど、家庭学習に関することについて改善が必要です。

5

町教育委員会における本年度の取組

(1) 大切にしている 3 つのポイント

- ①「生涯にわたり学び続ける力（学力）」を育成する授業改善
 - ・技術革新が連続する社会にあって、紀北町教育委員会は児童生徒に、「生涯にわたり学び続ける力」となる学力を育むことに取り組みます。
 - ・その学力を定着させるには、「どうしてなんだろう」、「なぜだろう」という興味を持てる授業づくりが基本であり、その中で「わかった」、「できた」という喜びを実感できる振り返りが大切です。そうした体験に出会うとき、子どもたちは学ぶ意欲を高め、意欲的に学び始めます。
 - ・この豊かな学びが定着するように、授業は「めあて・振り返り」を大切にして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組んでいます。
- ②「活用する力」の育成
 - ・学校における学びは基礎的・基本的な知識・技能を身につけることがゴールではありません。学んだ知識・技能を基盤として「活用する力」の育成を図ります。それが、授業における「発展な学び」であり、「協働的な課題解決学習」につながります。「何を知っているのか」で立ち止まることなく、「何ができるのか」をめざして、学びを発展させる中で「生涯にわたり学び続ける力」を育みます。
- ③スクリーンタイムの削減と、読書や運動のすすめ
 - ・コロナウイルス感染症が拡大した令和元年度末以降、児童生徒がゲーム機やスマートフォンの利用する時間であるスクリーンタイムが増えている実態があるため、依存傾向が強まらないか懸念しています。

- ・この問題は子どもだけでは解決しにくい課題であるため、家族との連携をお願いしているところです。家族読書や運動機会が増えたとの報告も届いてきました。引き続き、呼びかけを行います。
- ・現代社会において、入試出願などパソコンやスマートフォンの利用が無くなることはありえません。無くすのではなく、目的に応じた節度ある利活用が必要です。家庭・学校・社会が連携して、子どもたちのスクリーンタイム依存問題の解決に取り組みます。

（２）学力向上委員会の活動

各学校における家庭学習の充実や授業改善に資するよう、町全体としての課題について共通理解を図るとともに、学力向上の方策について検討します。また各中学校区での授業実践交流を行い、教職員の実践力、授業力の向上を図ります。

保護者と連携し、子どもたちの家庭学習の実態、生活習慣、読書等を把握し、成果と課題について共通理解を図るとともに家庭学習の充実のための方策について検討します。

（３）継続した授業改善の取組

- ①全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック等の結果分析を活用して、各校の強み・弱みを把握し、「できない」を「できるようにする」取り組みを行います。
- ②言語活動の充実を図るための授業改善に取り組みます。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組みます。
- ④ 中学校英語の学びの補充に向けて、中学校英語科部会を立ち上げ、授業改善に取り組みます。

（４）研修の充実

- ①学校の要請に基づき、学力向上アドバイザー、県と町の指導主事、紀北教育研究所の活用により、校内研修の指導・支援を図ります。
- ②町教育委員会主催で、「課題テーマ別研修会」や「実践者に学ぶミニ研修講座」を開催します。
- ③ すべての教諭がＩＣＴを効果的に活用できるように、紀北町単独で１人１台端末研修を継続開催します。

（５）補充学習の充実

- ①授業後半の「振り返り」「適用問題」等から見えてくる子どもたちのつまずきから、放課後、長期休業中の補充学習につなげます。
- ②補充学習には、「全国学力・学習状況調査過去問」、「みえスタディ・チェック過去問」、「eラーニング」「三重の学-Viva!!セット」等、各種ワークシートを活用します。

（６）家庭学習の充実

- ①ゲーム、ＳＮＳ、動画視聴の時間を減らし、家庭学習の時間を増やす「家庭学習習慣確立強化月間」を設定し取組めます。
- ②子どもたちの家庭学習の実態を把握するとともに、成果と課題について分析し家庭に還流します。
- ③紀北町スタンダードとしての家庭学習のあり方を設定し、児童生徒、保護者への啓発を進めます。

（７）読書活動の推進

- ①読書に親しんだり、授業で活用したりする活動を推進し、子どもたちが知識を広げ心豊かに成長するよう学校図書館活動の充実と活性化に努めます。
- ②「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の活動の推進を図ります。
- ③図書館司書の配置を推進します。
- ④「読書のすすめ」を発行します。

（８）家庭・地域との連携

- ①規則正しい生活習慣づくり、また、携帯スマートフォン、ゲーム、インターネット等の適正な使用について、家庭と連携しながら取組を推進します。
- ②地域の産業、自然、文化、人材や伝統についての理解を深め、郷土を愛する心や地域に貢献する意欲ＳＤＧ＇Ｓの課題解決に取り組む意欲を育むよう、地域と連携しながら取組を推進します。

（９）その他

児童生徒一人ひとりが居心地の良い学校・学級集団をつくり、安心して学べる学習環境をつくるために、すべての学年において学級満足度調査(Q-U)を実施し、その結果を活かした生徒指導を行います。

家庭・地域のみなさまには、今後も紀北町教育活動へのご理解・ご協力とともに、子どもたちの成長へのサポートを引き続きお願いいたします。